

令和5年度 国立大学図書館協会賞

大阪大学外国学図書館と箕面市立船場図書館

－大学図書館と市立図書館の一体的運営による地域連携の取り組み－

大阪大学 附属図書館 箕面図書館課 外国学図書館班 日高 正太郎



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

箕面市立船場図書館Webサイト



大阪大学外国学図書館Webサイト



取り組みのポイント

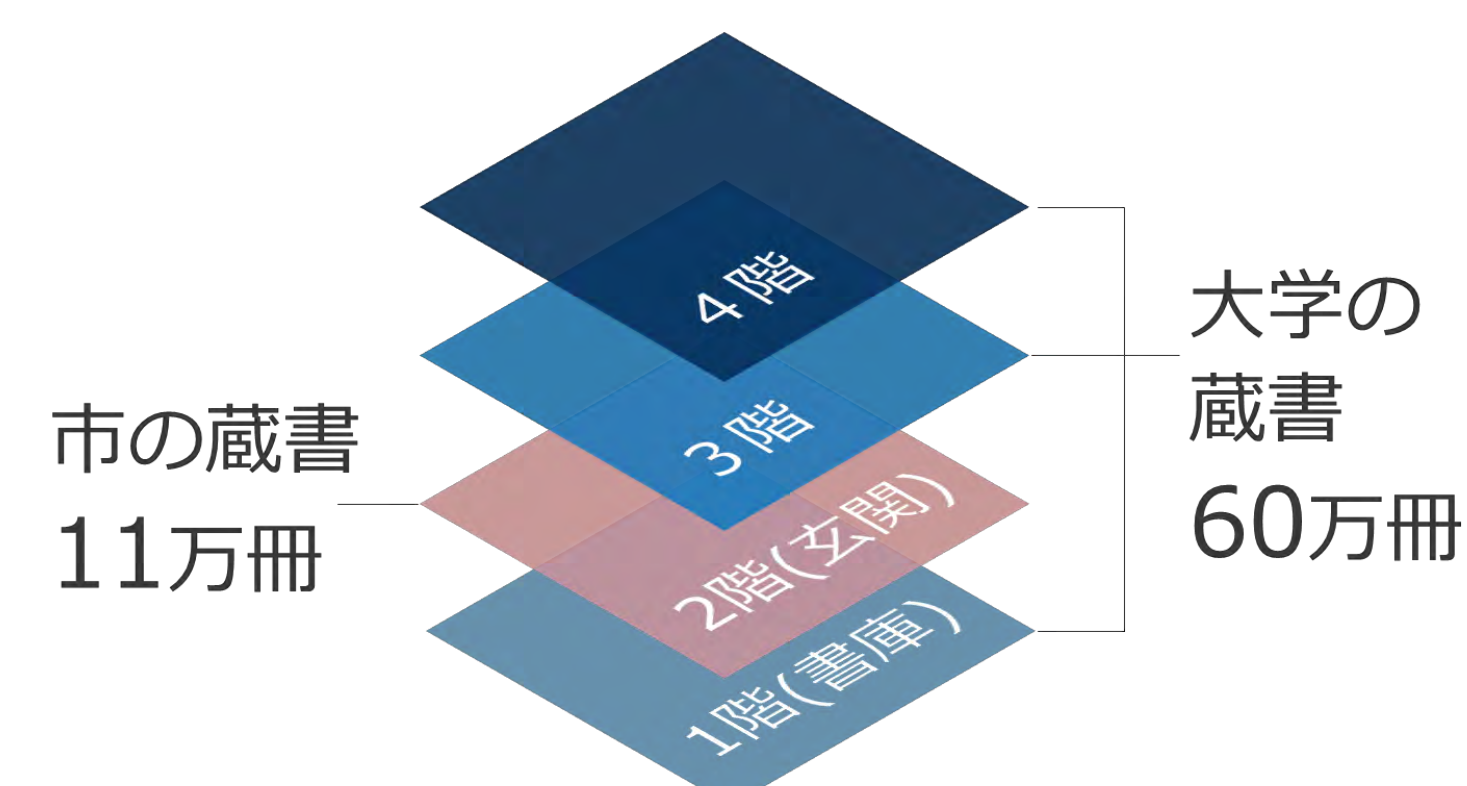
国立大学が指定管理者として公共図書館を運営する、国内初の事例（2021年5月開館）

大学図書館と市立図書館の蔵書・機能を、誰でも自由に利用できる一体的運営を実現

公共図書館運営など、業務の広がりに対応できる運営体制の構築、職員の成長・チームの成長

大阪大学・箕面市の新図書館への期待
＝「大学と市民を結ぶ地域連携の拠点となる」
⇒学部連携イベント、生涯学習講座の実施

箕面市立船場図書館とは？



箕面市立図書館と大阪大学外国学図書館の蔵書・機能を兼ね備える図書館

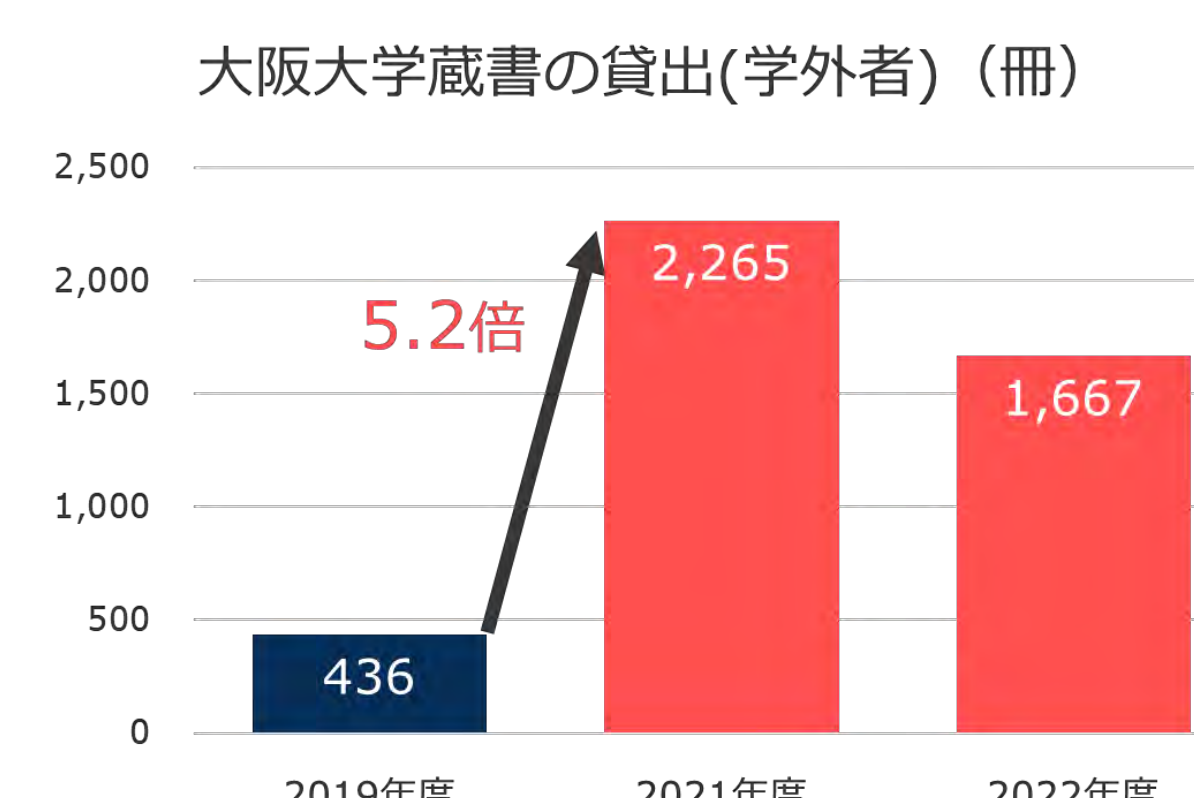
入館ゲートはなく、大学蔵書フロアを含めて誰でも自由に利用可能

指定管理者として大阪大学の職員が館全体の管理運営を担当（箕面市の職員はいない）

一体的運営の実際



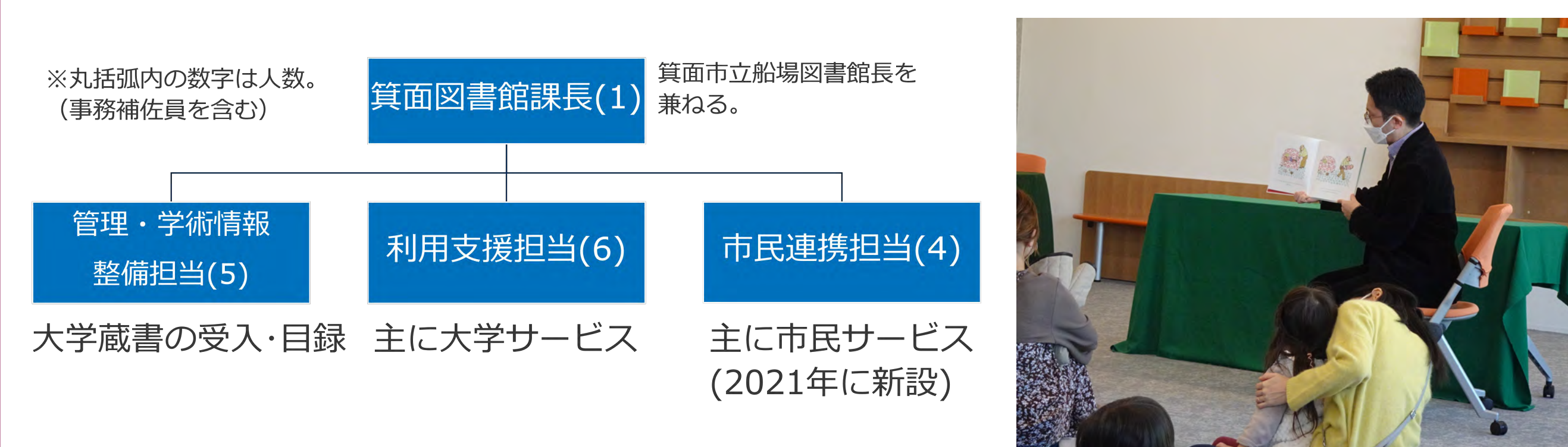
※どの年度も通常利用できていた7月～3月の合計を比較。



市・大学の2つの図書館システムを統合せず、個別に運用しながらも、サービスカウンターでは、ほぼワンストップのサービスを実現

大学蔵書の一般市民への貸出冊数は、一体的運営を開始する以前の5.2倍。市民による大学図書館の蔵書・機能の利用増大

運営体制、職員の成長・チームの成長



課内に公共図書館業務を所掌する「市民連携担当」を新設し、箕面市立図書館と連携

あらゆる利用者に対応できる「柔軟性」、児童サービスなど新規業務に「挑戦する心」の涵養

企画業務（図書展示、イベントなど）は担当の枠を超えてチーム全体で運営→経験の蓄積

地域連携①学部連携イベント



箕面キャンパスの外国語学部と連携した、子ども向け、大人向けイベントを継続実施

2年間で7回の学部連携イベント⇒「図書館＝地域連携の拠点」という認識の広がり

外国語学部との連携⇒イベントに多言語・多文化の色彩が加わる独自性

共通するのは「大学での学びを通じて地域の人に貢献したい」という教員・学生の思い

イベントに合わせて行う図書展示では、箕面市立図書館や大阪府立図書館とも連携

地域連携②生涯学習講座

図書館の上階（5・6階）の船場生涯学習センターも、大阪大学が指定管理者（別の部署が管轄）



図書館利用に関する生涯学習講座を、箕面図書館課の職員が実施（大学生向けガイダンスのノウハウを活用）